

# 宇都宮農業協同組合 第23回通常総代会

特集

第23回通常総代会

「希望の持てる農業」・  
「地域住民の快適なくらし」づくりの貢献へ



JAうつのみや



JAは5月26日、第23回通常総代会を宇都宮市のホテル東日本宇都宮で開きました。総代543人のうち、535人（書面提出521人）が出席。市村正明さん（中央支所）と濱野英一さん（上三川支所）が議長に選任され、「令和2年度事業報告および剰余金処分案の承認について」など全5議案が、慎重審議の結果、すべて原案通りに承認されました。



## 【第23回通常総代会 提出議案】

- 【報告事項】令和2年度貸借対照表、損益計算書、注記表および附属明細書の内容ならびに会計監査人の監査報告および監事の監査報告について
- 【決議事項】令和2年度事業報告および剰余金処分案の承認について
- 第2号議案
- 第3号議案
- 定款の一部変更について
- 第4号議案
- 共済規程の一部変更について
- 第5号議案
- 令和3年度事業計画の設定について
- 令和3年度理事および監事の報酬について



## 「農業者の所得増大」「農業生産の

### 拡大」へのさらなる挑戦

#### 1. 担い手のニーズに応える個別対応

- (1) 担い手に出向く体制の整備・充実
- (2) 担い手の経営に対応した総合事業提案の取り組み強化
- (3) 労働力支援・確保対策

#### 2. マーケットインに基づく生産・販売事業方式の確立

- (1) 国内需要に応じた土地利用型作物(米・麦・大豆)の生産振興
- (2) 園芸振興の強化と販売の拡大
- (3) J.A農産物直売所の運営強化
- (4) 畜産振興の強化と販売の拡大
- 3. 付加価値の増大と新たな需要開拓への挑戦
- (1) 輸出による新たな需要の開拓
- (2) 地域ブランドの強化
- (3) 消費者との信頼を築く食の安全確保策
- 4. 生産トータルコストの低減
- (1) 担い手の期待に応える生産資材価格の実現
- (2) 生産技術支援等による労働生産性の向上
- (3) 新規就農者対策の強化
- (4) 集落営農の組織化・法人化のレベルアップ対策
- (5) 取り組み
- 6. 営農・経済事業の経営資源の強化

## (1) 営農・経済部門の人材育成

### J.Aにおける営農・経済事業

#### 体制の強化

- (3) 農業関連施設の集約・広域再編

#### 7. 持続可能な農業の実現に向けた農業政策の提案・確立

- (1) 政策支援の充実を求めるための農政活動の強化

## 「地域の活性化」への貢献

### 1. 地域実態・ニーズを踏まえたJ.A事業とJ.A暮らしの活動の展開

- (1) 多様な拠点を活かした生活インフラ機能の発揮
- (2) J.A暮らしの活動を通じた地域コミュニティの活性化

### 2. 地域の多様な組織との連携強化による役割發揮

- (3) 介護保険事業を通したセーフティーネット機能の発揮

### 3. 農業物直売所を活用した情報発信

- (1) 食農教育や地産地消、地場産農畜産物の消費拡大PR(みんなのよい食プロジェクト)

## 組合員の「アクティブ・メンバー

### シップ」の確立

#### 1. 正・准組合員のメンバーシップの強化

- (1) 組合員との対話運動
- (2) 組合員の学びの場づくりの実践
- (3) 組合員のメンバーシップ強化

## に向けた職員研修の実施

### 「農・協同組合」にかかる国民理解の醸成

#### 1. 広報機能の強化に向けた取り組み

- (1) 一体的な広報機能の発揮
- (2) 多様な広報手段を活用した情報発信の強化

#### 2. 各種メディアを活用した情報発信

- (1) 広報紙やウェブサイト等および各種メディアを活用した情報発信
- (2) J.A農産物直売所を活用した情報発信
- (3) 食農教育や地産地消、地場産農畜産物の消費拡大PR(みんなのよい食プロジェクト)

#### 3. 「信用事業」

- (1) 顧客ニーズに対応できる魅力ある商品の提供および、年金振込者獲得による個人貯金の伸長
- (2) 正確な事務処理・不祥事の未然防止
- (3) 安全性・効率性を重視した余裕金の運用
- (4) 近代化資金等を含めた農業資金、住宅ローンを中心とした貸出金の伸長

## 自己改革の実践を支える経営・財務基盤の強化

### 1. 経営基盤の強化

#### 1. 業務執行体制の強化

- (1) 地方公共団体等との連携強化
- (2) 農作業安全対策の連携強化

#### 2. 将来見通しを踏まえたJ.A経営基盤の確立・強化(新たな事業展開を含む)

- (1) コンプライアンス態勢の構築、内部管理態勢の強化
- (2) コンプライアンス態勢の構築、内部管理態勢の強化
- (3) 効率的な要員体制の再構築
- (4) コンプライアンス態勢の構築、内部管理態勢の強化
- (5) リスク管理債権の圧縮
- 2. 人財育成の実践
- 3. 財務基盤の強化
- (1) 役職員の意識・行動改革
- (2) 「人財育成基本方針」の実践
- 4. 不稼働資産の利活用・処分
- 5. J.Aの事業仲長を支える各事業の実践

## 4. J.Aの事業仲長を支える各事業の実践

#### 【資産管理事業】

- (1) 次世代への総合的な支援
- (2) 相談活動の充実
- (3) 組合員からの委託に基づく分譲事業および流通店舗・賃貸住宅等の建設・管理

#### 5. 不稼働資産の利活用・処分

- (1) 次世代への総合的な支援
- (2) 相談活動の充実
- (3) 組合員からの委託に基づく分譲事業および流通店舗・賃貸住宅等の建設・管理

#### 6. J.Aの事業仲長を支える各事業の実践

#### 【信用事業】

- (1) 顧客ニーズに対応できる魅力ある商品の提供および、年金振込者獲得による個人貯金の伸長
- (2) 正確な事務処理・不祥事の未然防止
- (3) 安全性・効率性を重視した余裕金の運用
- (4) 近代化資金等を含めた農業資金、住宅ローンを中心とした貸出金の伸長

#### 7. 「共済事業」

- (1) 「ひと・いえ・くるま」の総合保障の提供による顧客満足度の向上
- (2) 安定的な事業基盤の維持拡大
- (3) 組合員・利用者に最大限の奉仕ができる体制づくり
- (4) 普及推進における法令遵守(コンプライアンス)の徹底

#### 8. 不稼働資産の利活用・処分

- (1) 次世代への総合的な支援
- (2) 相談活動の充実
- (3) 組合員からの委託に基づく分譲事業および流通店舗・賃貸住宅等の建設・管理

## 本年度の共済目標確認 JAが必達進発式

「本年度の共済目標達成の意思を確認した  
ガンバロウ三唱」



**令和3年度JA共済推進目標必達進発式（支所長・LAの部）**が4月6日、宇都宮市上大曾町のホテル東日本宇都宮で行われました。横松久夫組合長、各支所長、ライフアドバイザー（LA）ら約60人が出席し、本年度の目標などを確認しました。横松組合長は「大規模な地震や台風、豪雨による自然災害が毎年のように起きている。このような災害などの不安を安心に変えられるのが共済である。JA全体が一丸となって、共済の目標達成に向かってまい進しよう」とあいさつしました。豊郷支所の菊地隆史支所長とLAの代表が本年度の活動目標を確認しました。LAの決意表明は、12支所のリーダーが「感謝の気持ちを忘れずに、目標を達成したい」「組合員・利用者が

のライフプランにあった総合保障を提供していく」などと決意を表明しました。式に先立ち、令和2年度JAうつのみや優秀LA表彰が行われました。

△受賞者は次の通り。斎藤瑞樹（中央）鈴木達也（平石）遠藤克真（城山）菊池哲也（北部）鈴木史穂（豊郷）福田翔（清原）塚田幸治（河内）渡邊佳代（南河内）生沼義裕（上三川）野澤剛志、福田皓正（普及課）

## 土づくりの基本学ぶ にら女性勉強会

**に**ら女性勉強会は3月19日、「土づくりの基本と土壤診断書の見方」をテーマにした学習会を上三川野菜集荷所で開きました。会員やJAの担当者ら14人が出席し、土づくりの基本などを学びました。

同勉強会は、2018年7月から活動を始めました。座学や現地検討会、先進地視察などを行い、女性の視点から二ラづくりを学んでいます。

今回の学習会は、県河内農業振興事務所経営普及部園芸課の高橋陽平さんが講師を務めました。高橋さんは「作物が必要とする栄養素を、必要な時に、必要な場所に、必要な量だけ、バランスよく与えることが大切」と話しました。土壤診断書の見方では、実際に土壤診断書を見ながら、pHなどの分析項目の測定値や適性範囲を説明しました。



上三川集荷所で行われたにら女性勉強会の学習会

## 立莖時期が重要 Gアスパラガス専門部が現地検討会



グリーンアスパラガス専門部が行った現地検討会

**グ**リーンアスパラガス専門部は4月16日、現地検討会を宇都宮市平出町の田崎昌男専門部長のほ場で開催しました。部員、県・JAの担当者35人が参加しました。

田崎専門部長は「立莖時期を遅れないようにしてほしい。夏の収穫量を大きく左右する。これからの管理で収穫量をアップし、信頼される産地を目指そう」とあいさつしました。

参加者は、摘芯のタイミングなどを確認して、ハウス内のグリーンアスパラガスの状態を確認しました。県河内農業振興事務所の担当者が、立莖のポイント、立莖中の管理の注意点を説明しました。JAのグリーンアスパラガスは、6月から収穫量が徐々に増え、7～8月に夏芽の盛りを迎えます。

## 盟友の声を活動に繋げ組織を強化 青壯年部第23回通常総会

12



あいさつをする黒崎新部長



青

壯年部は3月23日、JA本所で第23回通常総会を開きました。盟友やJA役職員ら49人が出席。2020年度の事業報告や2021年度の事業計画の設定、役員改選等を審議しました。

20年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めつつ、営農と生活を向上させるとともに同部の拡充強化を図るために活動。JA常勤理事との意見交換会や農福連携をテーマとした講演を含む学習会、子ども食堂への農産物提供による地域貢献活動等を行いました。21年度も組織の強化、営農活動の強化、農政広報活動の強化等8項目の具体的な活動策を設定し、自らの営農と生活の安定向上や地域農業の活性化を目指して取り組みを続けていきます。役員改選にて新

青壯年部長に黒崎浩史さんを選任。黒崎さんは「新体制でもICTなどの新技術のセミナー等、盟友の皆さんからの要望を活動につなげ、頼りにされることで役員のモチベーションを上げていきたい」と抱負を話しました。横松久夫組合長は「地域に密着した信頼される指導員をしっかりと育成、そして配置していきたい。充実した営農に向けて前向きにJAとしても取り組んでいきたい」と話しました。

## ナシの人工授粉進む

梨専門部の相場専門部長のほ場

8



宇

都宮市駒生町の梨専門部の相場照久専門部長はナシ園で連日、人工授粉作業に追われています。4月12日は栃木生まれの主力品種「にっこり」の雌しべに、先端に羽毛のついた梵天(ぼんてん)と呼ばれる細長い棒を使ってひと花ずつ丁寧に花粉をつけていく作業を続けました。

相場専門部長は「今年は2、3月に好天、高温が続いたために例年より10日ほど開花が早かった。昨年は開花期に低温が続いたことで不作になったため、今年は梨専門部の全員が人工授粉をしっかりと実行し、栃木県産のナシをけん引していきたい」と話しています。

2.8㌶のほ場で、にっこりや豊水、幸水などを栽培しています。

相場専門部長のほ場では、人工授粉を花の開花状況に合わせ、各品種2回以上行い、4月中旬には全品種終了しました。



にっこりの人工授粉作業に追われている相場専門部長のほ場

## 本年度事業計画を説明

みどり会支部長・事務局合同会議

5



女

性組織みどり会は4月14日、みどり会支部長・事務局合同会議を開催し、新役員や関係者約50人が参加しました。

所洋子新会長は「女性の視点から、女性だからこそできることを考えていっていきたい」と抱負を語りました。見形繁常務は「地域の活性化も含めて取り組んでいきたい。農協は皆さんと一緒に歩んで参りたい」とあいさつしました。

会議では、令和3年度事業計画や女性会員新規加入促進運動、女性会員組合員化促進運動などの事項について説明しました。事業計画では、レクリエーション大会、研修旅行など例年行われている活動が新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となったことを受け、その代替案が示されました。

会議後、みどり会感謝状贈呈式が行われ、退任した役員へ感謝状と記念品が贈られました。相良律子元会長は「積極的に女性の意見を述べていってほしい」と新役員にエールを送りました。



みどり会支部長・事務局合同会議であいさつする所会長

## JJAが市政功労表彰 宇都宮市民の日記念つどい



オリオンスクエアで行われた「宇都宮市民の日」記念のつどい



都宮市は4月1日、「宇都宮市民の日」記念のつどいを、宇都宮市のオリオンスクエアで行い、JAがイチゴやランチョンマットなどを寄贈したとして同市表彰の市政功労表彰を受賞しました。

佐藤栄一市長は「市民の日は、宇都宮の素晴らしい歴史や文化を多くの市民に知ってもらうためにある」とあいさつしました。

表彰は、同市民憲章表彰と同市表彰の2部門。同市表彰には、市政功労表彰、うつのみや市民賞、市民栄誉賞があります。市政功労表彰は、地方自治の振興、社会福祉の増進、公益のための同市に対する金品の寄贈、その他行政に功労のあった団体・個人を表彰するもので、本年度は10件が表彰を受けました。

横松久夫組合長は「宇都宮市民に農業に興味を持ってもらいたい。宇都宮産の安全・安心な農畜産物を食してほしい」と話しました。

## 宇都宮市消防団協力事業所に認定



JAは4月15日、宇都宮市東消防署で同市消防団協力事業所表示証の交付を受けました。同表示証は、従業員などの消防団入団を勧奨し、その活動に便宜を図るなどした事業所を賞揚するものです。

同市消防団長の古山大功さんは、今回認定された8事業所に対し「表示証は消防団への協力の証しである。今後も被雇用者が入団しやすいよう地域防災の通知に協力いただきたい」とあいさつしました。

交付式に出席した佐藤俊伸専務は「入団し地域と交わることは自分にとってためになる。また、地域貢献の一環として組織的に協力することも必要である」と話しました。

なお、JAは総務省並びに栃木県からも消防団協力事業所として認定されました。



表示証の交付を受ける佐藤専務

## 佐藤専務が新人に講話 基本事項、確実に実行を



新人職員に講話する佐藤専務



JAは4月6日、2021年度新入職員の研修を本所で行いました。佐藤俊伸専務がJAの職員としての心構えなどを講話しました。

佐藤専務は「皆さんと情報を共有していきたい」とし、一人一人に自己紹介を求めました。新入職員は、名前、所属とJAを選んだ理由などを述べました。「地域のために働きたい」「農業体験がきっかけになった」「テレビのCMを見て影響を受けた」などさまざまな理由が出ました。

佐藤専務は「JAとは組合員が出資し設立した組織であり、組合員が運営し、組合員の要望に応えていく組織です。『報告・連絡・相談』の3つの基本事項を確実に実行してほしい」と説明しました。

# 管内インフォメーション

## 安全・安心を第一に、みそ・日本酒などを6次産業化 宇都宮のまほろば農場



まほろばの農場が開発したオリジナル商品と大木代表

宇

都宮市上小倉町の農業法人「まほろば農場」（大木正博代表取締役）は、自家栽培した米や大豆を使用したみそや日本酒などの6次産業化に取り組んでいます。殺虫剤・殺菌剤を使わない米栽培をはじめ、無農薬の大豆作りなど、安心・安全な農作物作りを最優先させています。

18年前に就農した大木代表（48）は、2015年6月に農業法人「まほろば農場」をスタートしました。大木代表は「我々の思いや技術を次の世代に渡すため」と法人立ち上げの理由を説明します。米作りを中心に32㌶のほ場を管理しています。みそや日本酒など、まほろば農場のオリジナル商品をそろえ、魅力づくりに努めています。ぬか床、トマトソース、はちみつも商品化しています。

まほろば農場産の商品は、宇都宮市下小倉のJAうつのみやJAグリーンかみかわちで販売しています。

## 会長に横松組合長を再任 JAアグリうつのみや株主総会

株 式会社JAアグリうつのみやは4月9日、第8期（2020年度）定時株主総会を宇都宮市中里町の同事業所で開催しました。

会長の横松久夫JAうつのみや組合長は「農作業の受託を積極的に実施するとともに、イチゴの安定経営を図り、収益向上につなげている。これからも組合員の負託に応えてほしい」とあいさつしました。

第8期貸借対照表、損益計算書などの報告事項と、事業報告および当期純利益を原案通り承認しました。役員選任議案では、横松会長、安藤正樹社長、柿沼大輔専務、増渕昭雄監査役の再任が同意されました。

2020年度のJAアグリうつのみや水稻栽培研究結果を報告。研究3年目になったコシヒカリ半乾田管理栽培は、水管理労力の更なる削減と収量アップを目的に実証を行いました。昨年と同じく約20%の水管理日数削減効果を実証しました。

コシヒカリ高密度播種疎植栽培研究は、水稻面積拡大に伴い、資材や労力の低コスト化が重要として取り組んでいます。10㌃当たりの使用苗箱枚数は植付本数を減らす工夫をしたために、前年度の10㌃当たり6.4枚を下回る5.9枚まで削減。水稻栽培で有効な技術であることが分かりました。



JAアグリうつのみやの事業所で行われた定時株主総会

# 水稻



6月に入ると、分けつの発生が旺盛になり、茎数が急激に増加します。この時期に大切なのは水管理で過剰な分けつの発生を抑えることです。

## 間断かん水と中干し

苗の活着後は、浅水管理で分けつの発生を促してきましたが、必要茎数(目標9俵なら20株/m<sup>2</sup>)植えのとき、1株18本)に達したら直ちに間断かん水に入りましょう。このときの茎数の数え方は、分けつ茎が頭を出したら一本と数えますので、田面は少し寂しく見えるくらいです。

開始時期は、一般に田植え後30~35日とされていますが、生育を見て開始時期が遅れないようにしましょう。稻わらなどの多いほ場では早い時期からガスの発生が多くなります。そのような時は一時水を落としガス抜きをします。

間断かん水することで根の健康が保たれ無効茎の発生が抑えられます。湿田や葉色の濃く茎数の多いほ場では中干しを行い、乾田や葉色が淡く茎数の少ないほ場では施肥時期まで間断かん水を続けます。

## いもち病の防除

近年、県内ほ場からQ-Oー剤耐性イネいもち病菌の発生が確認されました。耐性菌の発生・拡大防止のため、イネいもち病防除にQ-Oー剤を含む薬剤の使用は避けましょう。また、本田防除は、葉いもちに対しても初発前あるいは発生初期に穂いもちに対しても薬剤の使用適期に散布してください。

## 縞葉枯病の防除

縞葉枯病の発生の多い地域で罹病性品種を作付けするほ場は、箱施用剤と併せて本田防除による体系的な防除が重要です。早植は5月末~7月上旬、普通植は田植時~8月初めをカバーできるように防除しましょう。

## 稻こうじ病の防除

前年発生したほ場では防除を行いましょう。稻こうじ病に最も効果のある銅剤の防除適期は出穗10~20日前です。農薬の使用方法を守り散布を実施しましょう。薬剤については、表1を参考にしてください。農産物検査規格では、稻こうじが玄米へ混入した場合、規格外となりますので注意が必要です。

# 大豆



「里のほほえみ」の品種特性に応じた栽培管理により、品質・生産量の向上を図ります。

## 連作回避

大豆の連作は土壤病害虫を増加させるとともに地力を低下させ、粒の小粒化、収量・品質の低下をもたらします。このため、連作はできるだけ避け、やむを得ず連作をする場合は2年までとし、3年以上の連作はしないようにしましょう。

## 排水対策の徹底

畑作物の大豆は、発芽時だけでなく、生育期間中も湿害に弱い作物です。転換畑に作付するときは①地表水を速やかに排出する②地下水位を低くするための作業が必要です。排水不良のほ場は、周溝やほ場内に明

渠を設けるなどの排水対策を積極的に行いましょう。また、本暗渠と弾丸暗渠や心土破碎を組み合わせることでも排水性が改善されます。平坦地では圃地化する事により、地下水位の上昇を抑えます。

畠立て同時播種は播種後の湿害を回避する省力的方法として有効です。

## 土づくり

大豆の吸収する窒素は根粒菌からの供給が一番多く、次いで土壌中、肥料と続きます。稻わらや麦稈の全量鍬込みや完熟堆肥、ようりん、苦土重焼等の施用により地力の低下を防ぎましょう。

## 播種期と播種量

『里のほほえみ』の播種適期は6月15日~7月5日です。播種が早すぎると倒伏や病虫害粒の発生が多く、遅すぎると生育不良になるので注意が必要です。特に麦跡は播種が遅れないようにします。播種量は10a当たり4~5~6kgを基準とし、播種時期が遅くなるに従い株間を狭くします。播種前に種子消毒を必ず行いましょう。



©みんなのよい食プロジェクト

## みどり会富屋支部活動について

**み**どり会富屋支部では、昨年同様、新型コロナウィルスの影響で活動は自粛しております。

例年ですと春の寄せ植え教室から始まり、料理教室、研修旅行、手芸教室やしめ飾り作り等、年間5～6回の活動を行い、会員と顔を合わせ情報交換しております。

早く例年通りの活動ができるようになることを願い、今年度第1回目の活動は花の苗を各自寄せ植えしてもらう予定となっております。



活動再開を願う富屋支部のメンバー



春の寄せ植え



料理教室(一昨年)

## みどり会上三川支部活動について

**み**どり会上三川支部では、昨年度はコロナ感染拡大の影響で予定を立てられず、残念ながら活動することができませんでした。

例年でしたら7月に料理教室・手芸、12月にはフラワーアレンジメントと皆で集まり活動してきたところですが、残念ながらできない状況にあります。この状況が一日も早く収束し、会員と共に活動を再開できることを楽しみにしています。



一昨年フラワーアレンジメント教室に参加した上三川支部のメンバー



# ワンプレートレシピ One plate recipe

「冷やし納豆  
梅茶漬け」



## 材料(1人分)

冷や飯	.....	1/2膳分
納豆	.....	1パック
大葉	.....	5枚(千切り)
ミョウガ	.....	2個(小口切り)
梅干し	.....	2個(種を取りたたく)
いりごま	.....	適宜
おろしワサビ	.....	適宜
冷たいお茶	.....	約200ml

## 作り方

- ①冷や飯と納豆をそれぞれ別のボウルに入れて水洗いし、ざるにあげ水気を切っておく。
- ②おわんに①の冷や飯、納豆を入れ、上に梅肉、大葉、ミョウガ、いりごま、ワサビ(チューブ入りでもよい)を盛り付け、周りから冷たいお茶を注ぎ出来上がり。

茨城県笠間市にある  
天晴(旧キッチン晴人)  
オーナーシェフ

ながいともかず  
永井智一



## 今月の直売所情報

### JAはが野のメロン販売 (6月中旬まで)

今年も新型コロナウイルスの影響により、JAはが野恒例のメロン祭りが中止となりました。これを受けて今年も当JAで販売協力いたします。ぜひご利用ください。今年も上々の出来とのことで、期待できますよ!! 詳細は下記対象店舗にお問い合わせください。

※対象店舗：JAグリーンインターパーク・南河内グリーンセンター・えきの市場

### JAグリーンかみかわち 6月のお薦め品

とうもろこし、トマト、なす、真竹、など季節の野菜が出てきます。また、地酒、もち麦、手作りジャム等地元ならではの特産品も人気です。ぜひご来店ください。



### お米の特売日

JAグリーンインターパーク  
直売所 毎月第3日曜日(6/20)

JAうつのみや お薦めのみやおとめ(コシヒカリ)を  
お買い得価格にて販売します!!

&

### JAグリーンかみかわち直売所

毎月8のつく日(6/9(8日定休日のため翌日実施)6/18、6/28)



# 中央支所 宝木出張所

だより

各支所の活動や地域の情報を届けします!



JA役員がテープカットして新店舗オープン

4月5日(月)より新店舗オープンを迎えた宝木出張所をご紹介いたします。

まず、職員構成は、男性1名、女性6名の7名です。そして宝木出張所内に、金融部住宅ローンセンターを設置し、男性6名、女性2名の新たな仲間が加わり、今までの宝木出張所職員にプラス(強化)して、計15名の事業所になりました。

今までと変わりなく、金融専門1名、LA1名が在籍しておりますので、お気軽にお声をかけていただければ、訪問によるご提案等の相談業務をさせていただきますのでよろしくお願いします。また、住宅ローンセンターにおいては、住宅ローンスペシャリストの4名の営業マンが皆さまを笑顔でお待ちしております

で、ぜひ、新店舗になった宝木出張所にご来店いただきますよう心よりお待ち申し上げます。

なお、旧店舗解体作業により組合員・利用者の皆さんには、大変ご迷惑をおかけいたします。また、ご来店時の駐車場についてもご不便をおかけしますが、何とぞ、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 臨時駐車場ご利用のお願い

旧店舗の取壊しに伴い、敷地内の駐車場利用を制限させていただいております。敷地内駐車場が満車の場合は、店舗北側に設置しております臨時駐車場のご利用をお願いいたします。ご不明な点等ございましたら、店頭窓口・下記連絡先までお問合せください。ご不便・ご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

※臨時駐車場の設置期間は令和3年4月1日(木)～令和3年7月31日(土)を予定しております。



## 支所・センター電話番号

中央支所 028-633-3467	南河内支所 0285-48-2211
宝木出張所 028-622-6111	上三川支所 0285-55-1510
平石支所 028-661-4311	宇都宮北部営農経済センター 028-665-0550
南部支所 028-656-1020	宇都宮西部営農経済センター 028-658-6565
城山支所 028-652-0711	宇都宮南部営農経済センター 028-656-8484
北部支所 028-665-0003	宇都宮東部営農経済センター 028-660-3535
豊郷支所 028-624-8011	上河内営農経済センター 028-674-2164
清原支所 028-667-0151	河内営農経済センター 028-673-6911
姿川支所 028-658-6881	南河内営農経済センター 0285-48-2215
上河内支所 028-674-3333	上三川営農経済センター 0285-55-1511
河内支所 028-673-3135	

## 各種お問い合わせはこちらへ

キャッシュカードの紛失・盗難  
フリーダイヤル0120-082065

夜間・土・日・祝祭日の自動車事故(24時間受付)  
事故受付センター フリーダイヤル0120-258931

J.A.葬祭(24時間受付)  
アトラス宇都宮ホール 028-660-5555  
アトラスアミーリーホール鶴田 028-633-9200  
アトラス上三川ホール 0285-55-1555

LPGAS関係 灯油・軽油・A重油の配達  
フリーコール 0800-700-0085(通話無料)  
※緊急連絡先028-633-0085